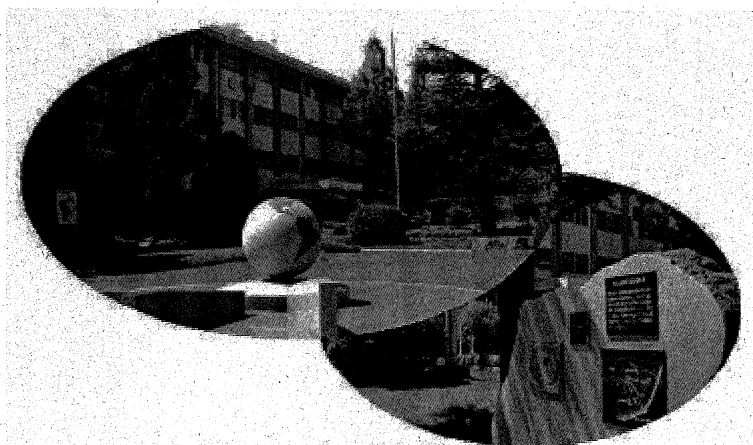


令和5年度 年間学習計画 【シラバス】



生活創造科 1 年

令和5年度「現代の国語」年間指導・評価計画

授業担当等

生活創造科1年

使用教科書

「現代の国語」(数研出版)

教科・科目の目標

1. 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
2. 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
3. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

習得する資質・能力			知識技能[記号]	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度[記号]	評価の方法	主な学習活動	教材等
				A 話すこと・聞くこと[記号]	B 書くこと[記号]	C 読むこと[記号]				
月	単元名・時数	指導事項・評価基準								
4	『目指す世界の地図を作る』	5	話し言葉の特徴や役割、表現の特徴を踏まえ、正確さ、わかりやすさ、適切さ、親しみなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解している。【B1イ】			「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。【C1ア】	筆者の意図や表現上の工夫を捉え取り深く読み取り、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	①記述の点検②行動の分析③記述の分析	・タイトルや具体例に注意して主張を捉え、物事を多様な視点から見ると姿勢を養う。	教科書、ノート、ワークシート、タブレット
5	『目指す世界の地図を作る』 ●体育祭	10	話し言葉の特徴や役割、表現の特徴を踏まえ、正確さ、わかりやすさ、適切さ、親しみなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解している。【B1イ】			「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。【C1ア】	筆者の意図や表現上の工夫を捉え取り深く読み取り、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	①記述の点検②行動の分析③記述の分析	・タイトルや具体例に注意して主張を捉え、物事を多様な視点から見ると姿勢を養う。	教科書、ノート、ワークシート、タブレット
6	『グラフをもとに話し合う(アンケート調査)』 ★考査	7	情報の妥当性や信頼性の判断の仕方について理解を深め使っている。【B2ロ】		「書くこと」において、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を捉えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の長所や課題を捉え直したりしている。【B1ロ】		課題見直しを参考にしながら積極的に課題を行い、学習課題に沿って適切に資料を作成しようとしている。	①記述の点検②行動の分析③記述の分析	・情報を分かりやすく整理し、表現を検討して手帳を書く。	教科書、ノート、ワークシート、タブレット、新聞
7	『ものづくり』	7	個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。【B2イ】			「読むこと」において、内容や構成などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。【C1ア】	筆者の考えを理解したうえで積極的に適切な事例を考え、学習課題に沿って発表しようとしている。	①記述の点検②行動の分析③記述の分析	・タイトルや具体例に注意して主張を捉え、物事を多様な視点から見ると姿勢を養う。	教科書、ノート、ワークシート、タブレット
9	スピーチ ★考査	12	話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特徴を踏まえ、正確さ、分りやすさ、適切さ、親しみなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。【B1イ】	「話すこと・聞くこと」において、話し言葉の特徴を踏まえて話したり、聴く状況に応じて資料や情報を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫している。【A1ロ】			相手に伝わるスピーチのしかたについて取り扱う検討し、学習課題に沿って適切に話したり聞いたりしようとしている。	①記述の点検②行動の分析③記述の分析	・探究学習の基礎として、発想を広げてアイデアを整理し、的確に伝える方法を身につける。	教科書、ノート、ワークシート、タブレット、タイマー
10	『水の東西』	11	個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。【B2イ】			「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。【C1ア】	筆者の意見を踏まえたうえで、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。【C1ア】	①記述の点検②行動の分析③記述の分析	・タイトルや具体例に注意して主張を捉え、物事を多様な視点から見ると姿勢を養う。	教科書、ノート、ワークシート、タブレット
11	文章構造を理解する ●農業祭 ★考査	6	文、語、文章の効果的な組合せ方や接続の仕方について理解している。【B1ロ】		「書くこと」において、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を捉えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の長所や課題を捉え直したりしている。【B1ロ】		文章構造について取り扱う検討し、課題に沿って一貫性のある文章を書くこととしている。	①記述の点検②行動の分析③記述の分析	・読み比べて考えを明確にし、わかりやすい構成で書く。	教科書、ノート、ワークシート、タブレット、併用作文プリント
12	『時間とは何か』 ●農畜百首かるた大会	8	文、語、文章の効果的な組合せ方や接続の仕方について理解している。【B1ロ】			「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。【C1ア】	筆者の考えを捉え取り深く理解し、適切な表現を用いて、学習課題に沿って論理的にまとめようとしている。	①記述の点検②行動の分析③記述の分析	・タイトルや具体例に注意して主張を捉え、物事を多様な視点から見ると姿勢を養う。	教科書、ノート、ワークシート、タブレット、農畜百首かるたプリント
1	『写真を文章で説明する』	8	書き言葉の特徴や役割、表現の特徴を踏まえ、正確さ、分りやすさ、適切さなどに配慮した表現について理解し、使っている。【B1イ】		「書くこと」において、自分の考えや事柄を的確に伝えるよう、相手の手引きや助言の仕方を含めるとともに、文章の種類や文法、語彙などの表現の工夫を工夫している。【B1ロ】		課題見直しを参考にしながら積極的に読み取り、読み手によりわかりやすい表現を工夫して、学習課題に沿って説明しようとしている。	①記述の点検②行動の分析③記述の分析	・情報を分かりやすく整理し、表現を検討して手帳を書く。	教科書、ノート、ワークシート、タブレット
2	『世間話はなぜずるか』 ★考査	5	実社会において理解したり表現したりするために必要な結句や結句の構造や特色、用法及び接続の仕方などを理解し、応用を促す授業を重視している。【B1ロ】			「読むこと」において、目的に応じて、文章に書かれている情報を相互に関連付けながら、内容や書き手の意図を解釈するとともに、自分の考えを深めている。【C1イ】	具体的な事象について筆者の主張をもとに捉え取り深く考察し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	①記述の点検②行動の分析③記述の分析	・タイトルや具体例に注意して主張を捉え、物事を多様な視点から見ると姿勢を養う。	教科書、ノート、ワークシート、タブレット、読書本の活用
3	『非言語コミュニケーション』	6	個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。【B2イ】	「話すこと・聞くこと」において、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。【A1ア】			筆者の意見を踏まえて積極的に具体的な事象を考え、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	①記述の点検②行動の分析③記述の分析	・タイトルや具体例に注意して主張を捉え、物事を多様な視点から見ると姿勢を養う。	教科書、ノート、ワークシート、タブレット、図鑑等の活用

令和5年度 「地理総合」 年間指導・評価計画	学年 1年	使用教科書	補助教材
	生活創造科	新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）	なし

学習の目標

- 現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察する。
- 現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培う。
- 国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

指導計画及び評価方法等

月	学習項目	学習活動	評価基準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習にとりくむ態度
4 5 6 7	第1部 地図でとらえる現代世界 1章地図と地理情報システム 2章結びつきを強める現代世界	・地図の有用性を理解するとともに地図やGISの活用方法について考察する。 ・国家の役割を理解するとともに、位置や分布などに着目しながら、地域間の様々な相互関係について考察する。	知識・技能 小テスト、定期考査 ・地図や地理情報の有用性を理解している。 ・国家間の結びつきを理解している。	思考・判断・表現 定期考査、レポート、ノート ・地図やGISの活用を考察し表現している。 ・世界的視野から日本を多角的に考察し表現している。	主体的に学習にとりくむ態度 活動の様子の観察、レポート、口頭発表など ・地図やGISについて課題を主体的に追究・解決しようとしている。
9 10 11 12	第2部 国際理解と国際協力 1章生活文化の多様性と国際理解 2章地理的課題と国際協力	・場所や人間と生活との関わりに着目し、世界各地の生活文化の特徴を理解する。 ・他地域との結びつきや地域の特徴などに着目しながら、持続可能な社会をつくるために必要なとりくみについて考察する。	知識・技能 小テスト、定期考査 ・自然環境と生活への影響を理解している。 ・地球的課題について理解している。	思考・判断・表現 定期考査、レポート、ノート ・世界各地の多様性について多角的に考察し表現している。 ・地球的課題について主題を設定し、多角的に考察し表現している。	主体的に学習にとりくむ態度 活動の様子の観察、レポート、口頭発表など ・生活文化の多様性と国際理解について、課題を追究し解決しようとしている。 ・よりよい社会の実現に向けた課題を設定し、追究・解決しようとしている。
1 2 3	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 1章 自然環境と防災 2章 生活圏の調査と地域の展望	・地域の特徴に着目し、自然環境の特徴を理解するとともに、自然災害に備えた対策について考察する。 ・他地域との結びつき地域の成り立ちや変化に着目し社会参画のあり方について考察する。	知識・技能 小テスト、定期考査 ・地理的課題の解決に向けて、調査方法や調査計画を理解している。 ・日本の自然災害等の特徴を理解している。	思考・判断・表現 定期考査、レポート、ノート ・地域性を踏まえた防災について、主題を設定し多角的に考察し表現している。 ・事前調査や地域調査について多角的に考察し表現している。	主体的に学習にとりくむ態度 活動の様子の観察、レポート、口頭発表など ・自然環境と防災について、課題を主体的に追究・解決しようとしている。 ・地理的課題の解決に向け、調査方法など課題を設定し、追究・解決しようとしている。

【シラバス】年間指導・評価計画	学 科	単位数	使用教科書	使用副教材
長崎県立島原農業高等学校 令和5年度 1年 数学I	生活創造科1年	8	最新 数学I（数研出版）	パラレルノート数学I+A（数研出版）

1 科目の目標と評価の観点

目 標	数と式、2次関数について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	数と式、2次関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表し、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 学習計画と観点別評価規準 *以下、履修月はあくまでも目安である。

第1章 数と式				
学習内容	時数	学習のねらい	観点別評価規準	
			知識・技能 【評価方法】定期考査、小テスト、模擬テスト、パラレルノート	思考力・判断力・表現力 【評価方法】定期考査、小テスト、模擬テスト
1. 多項式	2	式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりするなどして既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。	○単項式や多項式、次数、係数、項について理解している。 ○同類項をまとめて、多項式を降べきの順に整理することができる。 ○ある文字に着目して、多項式を降べきの順に整理することができる。	○単項式、多項式とその整理の仕方に関心をもち、考察しようとする。
2. 多項式の加法・減法・乗法	3		○多項式の加法・減法は、同類項をまとめることによってできることを理解している。 ○指数法則を理解し、計算に用いることができる。 ○分配法則を用いて、式を展開することができる。	○式の展開は分配法則を用いれば必ずできることを理解できる。
3. 展開の公式	2		○展開の公式を用いて、式を展開することができる。	
4. 式の展開の工夫	2		○おきかえを利用し、多項式の展開の公式に帰着させることができる。 ○式の形の特徴に着目して掛ける順番を工夫し、計算を簡単にすることができる。	○複雑な式の展開について、式の工夫の仕方を判断して式を展開することができる。 ○式を1つの文字におき換えることによって、式の計算を簡略化することができる。
5. 因数分解	3		○共通因数をみつけ、共通因数のくくり出しができる。 ○因数分解の公式を用いて、式を因数分解できる。	○展開と因数分解の関係に着目し、因数分解の検算に展開を利用しようとする。
6. いろいろな因数分解	3		○多項式を適切な形に整理したり、おきかえなどを利用したりして、因数分解の公式に帰着させることができる。	○複雑な式についても、項を組み合わせた、降べきの順に整理するなどして見通しをよくすることに取り組もうとする。

7. 実数、研究	2	中学校までに扱ってきた数を実数としてまとめ、数の体系についての理解を深める。その際、実数が四則演算に関して閉じていることや、数直線上の点と1対1に対応していることなどについて理解するとともに、簡単な無理数の四則計算ができるようにする。	○分数を循環小数で表すことができる。 ○有理数と無理数の違い、および実数について理解している。 ○絶対値の意味と記号を理解している。	とで、因数分解をすることができる。 ○分数が有限小数や循環小数で表される仕組みを考察できる。 ○自然数、整数、有理数、実数の各範囲で、四則計算について閉じているかどうかを考察できる。 ○実数が数直線上の点として表されることを考察できる。	○今まで学習してきた数の体系について整理し、考察しようとする。 ○循環小数を分数で表す方法に興味・関心をもつ。
8. 根号を含む式の計算	3		○平方根の意味・性質を理解している。 ○平方根を含む式の計算ができる。 ○分母の有理化の方法について理解している。	○平方根の性質、平方根の積と商などについて、一般化して考察できる。	
10. 不等式の性質	1		○不等式の性質における不等号の向きを判断することができる。	○不等式の性質を、数直線と対応させて考察できる。	
11. 1次不等式の解き方	2		○不等式の性質、1次不等式の解法を理解し、1次不等式を解くことができる。		○不等式の性質から、1次不等式の解法を考察しようとする。
12. 連立不等式、コラム	2		○数直線を用いて、2つの不等式の共通範囲を求めることができる。 ○連立不等式の解を数直線を用いて表示し、解を求めることができる。 ○ $A < B < C$ の形の不等式を連立不等式として解くことができる。		○連立不等式の解を考察しようとする。
13. 不等式の利用	1			○身近な問題に対し、適切に変数を定め、1次不等式で表現できる。	○身近な問題を、1次不等式を用いて解決しようとする。

第2章 集合と命題

学習内容（配当時間）	時数	学習のねらい	観点別評価規準		
			知識・技能 【評価方法】定期考査、小テスト	思考力・判断力・表現力 【評価方法】定期考査、課題提出	主体的に学習に取り組む態度 【評価方法】定期考査、授業態度
1. 集合と部分集合	2	集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。	○集合の要素であるかどうかを判定することができる。 ○集合を「 $\{ \}$ 」を用いて表すことができる。 ○部分集合、空集合、2つの集合の包含関係を理解している。 ○共通部分、和集合、補集合を求めることができる。	○集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる。 ○ベン図などを用いて、集合を視覚的に表現	○集合について、それぞれの特徴や関係に合った表現方法を考察しようとする。
2. 共通部分、和集合、補集合	3				○ド・モルガンの法則に関心をもち、考察しようとする。
3. 命題と集合	3		○命題や条件の意味を理解している。 ○命題の真偽を、集合や反例などを用いて判定することができる。 ○真である命題の逆は、真であるとは限らないことを理解している。 ○必要条件、十分条件の意味を理解している。 ○条件の否定を理解し、否定を述べることができる。	○命題の真偽を、集合の包含関係に結び付けてとらえることによって考察することができる。 ○命題が偽であることを示すには、反例を1つあげればよいことが理解できている。	○条件を満たすものの集合の包含関係が、命題の真偽に関連していることに着目し、命題について調べようとする態度がある。 ○日常語の「かつ」「または」との関連を認識しようとする。

				○ド・モルガンの法則を理解しており、「かつ」「または」の否定を述べる ことができる。 ○命題とその対偶の真偽が一致することを理解している。		
4. 命題と証明, 研究	3			○対偶や背理法を用いて証明することができる。	○直接証明するのが難しい命題については、対偶 や背理法を用いるなどの間接証明の利用を考え 証明することができる。	○直接証明法では難しい命題も、対偶や背理法 を用いれば証明できることに興味・関心をも つ。

第3章 2次関数

学習内容 (配当時間)	時 数	月	学習のねらい	観点別評価規準		
				知識・技能 【評価方法】定期考査、小テスト	思考力・判断力・表現力 【評価方法】定期考査、課題提出	主体的に学習に取り組む態度 【評価方法】定期考査、授業態度
1. 関数	10	1	2次関数とそのグラフについて理解し、2関数を用いて数量の 関係や変化を表現することの 有用性を認識するとともに、 それらを事象の考察に活用で きるようにする。	○xの関数yが与えられたとき、xの値に対するyの値を求めることができる。 ○ $y=f(x)$ や $f(x)$ の表記を理解しており、関数の値 $f(a)$ を求めることができ る。 ○座標平面について理解している。 ○関数のグラフがかけられる。 ○1次関数と直線について理解している。 ○2次関数の式が2次式で表されることを理解している。 ○2次関数 $y=ax^2$ のグラフの頂点、軸について理解している。	○身近な問題を、関数の式で表すことができる。 ○関数を表、式、グラフによって考察することが できる。	○日常生活に見られる具体例から関数を見つ けようとする。 ○関数が与えられたとき、そのグラフをかこう とする。
2. 関数とグラフ	1					
3. $y=ax^2$ のグラフ	1					○放物線のもつ性質に興味・関心を示し、自ら 調べようとする。
4. $y=ax^2+q$ のグラフ	1			○2次関数 $y=ax^2+q$ のグラフの頂点、軸について理解している。 ○放物線をかき、それをy軸方向に平行移動させることができる。 ○2次関数 $y=a(x-p)^2$ のグラフの頂点、軸について理解している。 ○放物線をかき、それをx軸方向に平行移動させることができる。	○2次関数 $y=ax^2+q$ のグラフの特徴を考察するこ とができる。 ○2次関数 $y=a(x-p)^2$ のグラフの特徴を考察する ことができる。	
5. $y=a(x-p)^2$ のグラフ	1					
6. $y=a(x-p)^2+q$ のグラフ	1			○2次関数 $y=a(x-p)^2+q$ のグラフの頂点、軸について理解している。 ○放物線をかき、それをx軸方向、y軸方向に平行移動させることができる。 ○ $y=ax^2+bx+c$ のグラフをかくためには、 $y=a(x-p)^2+q$ の形に変形する必要 があることを理解している。 ○ $y=ax^2+bx+c$ を $y=a(x-p)^2+q$ の形に変形し、そのグラフをかくことが できる。 ○グラフの平行移動を、x軸方向、y軸方向の用語を用いて表現できる。	○2次関数 $y=a(x-p)^2+q$ のグラフの特徴を考察 することができる。 ○2次関数のグラフの平行移動は、頂点の移動を 考察すればよいことを理解している。	○一般の2次関数 $y=ax^2+bx+c$ について、頂点の 座標を考察しようとする。
7. $y=ax^2+bx+c$ のグラフ	4					
8. 2次関数の最大・最小	5	11	2次方程式や2次不等式の解と 2次関数のグラフとの関係に ついて理解し、2次関数のグラフ	○2次関数の最大値、最小値を求めることができる。 ○定義域が限られた場合において、2次関数の最大値、最小値を求めるこ とができる。	○2次関数が最大値または最小値をもつことを、 グラフを使って、理解しようとする。	○身近な問題を、2次関数の最大・最小の考え を活用して解決しようとする。

第2節 2次方程式と2次不等式	9. 2次関数の決定	2	12	グラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。	○与えられた条件を関数の式に表現し、2次関数を決定することができる。	○2次関数の決定において、通した2次関数の式の形を使うことができる。	○2次関数の決定条件に興味、関心をもち、考察しようとする。
	10. 2次方程式	2	1	○因数分解を用いて、2次方程式を解くことができる。 ○解の公式を用いて、2次方程式を解くことができる。 ○2次方程式は、因数分解による解法が難しい場合に、解の公式を利用すれば、必ず解を求められることを理解している。 ○2次方程式の解の個数が判別式 $D=b^2-4ac$ の符号によって決まることを理解している。	○2次方程式が実数解や重解をもつための条件を、判別式 $D=b^2-4ac$ の符号から求めることができる。	○2次方程式が実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。	○2次方程式がどんな場合でも解けるように、解の公式を得て、それを積極的に利用しようとする。
	11. 2次関数のグラフとx軸の共有点	2	2	○2次関数のグラフとx軸との共有点のx座標を求めることができる。 ○2次関数のグラフと、2次方程式の関係を理解している。 ○2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を、 $D=b^2-4ac$ の値から考察できる。	○2次関数のグラフとx軸の位置関係の条件を $D=b^2-4ac$ の符号から求めることができる。	○2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を、 $D=b^2-4ac$ の値から考察できる。	○2次関数のグラフとx軸の位置関係を調べ、その意味を探ろうとする。
	12. 2次不等式	3	3	○2次関数のグラフとx軸の位置関係を、 $D=b^2-4ac$ の値から考察できる。 ○2次関数のグラフとx軸の位置関係の条件を $D=b^2-4ac$ の符号から求めることができる。	○2次関数のグラフとx軸の位置関係の条件を $D=b^2-4ac$ の符号から求めることができる。	○2次関数のグラフとx軸の位置関係の条件を $D=b^2-4ac$ の符号から求めることができる。	○1次関数のグラフと1次不等式の関係から、2次不等式の場合を考えようとする。
	13. 2次不等式の利用	1	1	○2次関数のグラフを利用して、2次不等式を解く方法を理解し、2次不等式を解くことができる。	○2次関数のグラフとx軸の位置関係を、 $D=b^2-4ac$ の値から考察できる。	○2次関数のグラフとx軸の位置関係を、 $D=b^2-4ac$ の値から考察できる。	○身近な問題を、2次不等式を用いて解決しようとする。

令和5年度 年間学習計画（シラバス）

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2単位
学科	生活創造科		学年	第 1 学年	
教科書	新編生物基礎(東京書籍)		副教材等	なし	

1 学習の目標

- (1) 物事を理論的に考える力を養います。
- (2) 生物の共通性と多様性を理解します。
- (3) 自分の身体や生活との関連性を理解します。

2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容(項目)	学習のねらい	評価の項目		
				知識技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学期	4	1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性	・生物の多様性と共通性について学習します。 ・細胞の構造とはたらきについて学習します。	・実験器具を正しく扱い、安全に実験を行うことができる。 ・細胞の構造と真核細胞、原核細胞について理解している。	・生物の共通性と起源の共有には関連性があることを見いだして考察している。 ・さまざまな生物の顕微鏡観察から、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見いだして表現している。	・実習の結果を主体的に考察して表現しようとしている。 ・生物の多様性と共通性について、学習した用語どうしのつながりを整理し、振り返ろうとしている。
	5	2章 生物とエネルギー	・代謝の主役としての呼吸や光合成とエネルギーの仲介役をするATPについて学習します。 ・酵素について学習します。	・ATPの構造とはたらきについて理解している。 ・呼吸と呼吸の概要について理解している。 ・酵素の基本的な特徴を理解している。	・実習3の生のパイナップルを使ったゼラチンと寒天の実験から、酵素の基質特異性を見いだして表現している。	・代謝について、学習した用語どうしのつながりを整理し、振り返ろうとしている。
	6	2編 遺伝子とそのはたらき 1章 遺伝情報とDNA	・遺伝子とゲノムについて学習します。 ・DNAの構造と細胞分裂について学習します。	・遺伝情報やゲノムについて体系的に理解している。 ・DNAの構造及び、細胞分裂の過程を理解している。	・実習4のDNAモデルの作製から、DNAの構造の規則性や関係性を見いだして表現している。	・実習の結果を主体的に考察して表現しようとしている。
	7					
第2学期	9	2編 遺伝子とそのはたらき 2章 遺伝情報とタンパク質の合成	・タンパク質とは何か学習します。 ・DNAの遺伝情報により、どのようにしてタンパク質が合成されるかを学習します。	・タンパク質の構成単位や生体内での役割やはたらきについて理解している。 ・DNAの塩基配列からmRNAの塩基配列へ転写され、mRNAの塩基配列からtRNAを介してアミノ酸配列へと翻訳される情報の流れを理解している。	・実習6のDNAの塩基配列と、それに対応するタンパク質のアミノ酸配列に関する資料から、DNAの塩基配列とアミノ酸配列の間にある関係性を見いだして表現している。	・実習の結果を主体的に考察して表現しようとしている。 ・セントラルドグマについて、学習した用語どうしのつながりを整理し、振り返ろうとしている。
	10	3編 ヒトの体の調節 1章 ヒトの体を調節するしくみ	・体内環境を維持するために、血液や神経、ホルモンがどのように働いているかを学習します。 ・血糖濃度をどのように調節しているかを学習します。	・体外環境と体内環境、体液の関係について理解している。 ・神経系の構成や情報伝達のしくみについて理解している。 ・内分泌腺やホルモン、その作用について理解している。	・体には体内環境の変化という情報を伝達する経路があることに気づき、考察している。 ・血糖濃度の変化とインスリン、グルカゴンのはたらきとの関係に気づき考察している。	・実習の結果を主体的に考察して表現しようとしている。 ・体内環境、神経系、内分泌系について、学習した用語どうしのつながりを整理し、振り返ろうとしている。
	11	2章 免疫のはたらき	・ヒトはどのようにして細菌やウイルスから身を守っているかについて学習します。 ・免疫に関係する病気について学習します。	・自然免疫や適応免疫が病原体の排除にはたらいていることを理解している。 ・一次応答と二次応答のしくみと、免疫記憶を応用した予防接種のしくみを理解している。 ・アレルギー、自己免疫疾患、AIDSなどの疾患のメカニズムを理解している。	・白血球の一種である好中球の食作用の資料から、異物を細胞に取り込み、処理する能力をもつことに気づき、考察している。 ・一次応答と二次応答における抗体生産量の変化を示した資料から、同じ疾患に二度とかかりにくい理由に気づき、考察している。	・実習の結果を主体的に考察して表現しようとしている。 ・免疫について、学習した用語どうしのつながりを整理し、振り返ろうとしている。
	12					
第3学期	1	4編 生物の多様性と生態系 1章 植生と遷移	・植生の遷移やバイオームについて学習します。	・環境要因としての光と土壌の変化や特徴について理解している。 ・遷移の結果、気候に応じたバイオームが形成されることを理解している。	・土壌や光環境の変化によって遷移が進行することに気づき、考察している。 ・環境条件によって植生が異なることに気づき、考察している。	・森林の写真や絵画から、森林の階層構造について理解しようとしている。 ・自然災害と一次遷移・二次遷移の関係を理解しようとしている。
	2	2章 生態系と生物の多様性	・生態系の維持、保全にいろんな生物がどのように関わっているかを学習します。	・環境と生態系の種多様性の関係について理解している。 ・生態系のバランスと人為的攪乱を関連づけて理解している。 ・生態系の保全の重要性を理解し、人間活動が生態系に与える影響について理解している。	・身近な生態系の中に多種類の生物が存在することに気づき、出現する生物の種類数や個体数と環境との関係について考察している。 ・生態系では多様な生物がバランスを保ち、攪乱が大きいとバランスが崩れることを考察している。	・実習16を通して、環境アセスメントに関心をもち、さまざまな資料を調べたり、友達と対話したりしながら、生態系の保全の重要性について考えようとしている。
	3					

授業担当等	生活創造科1年	使用教科書	大修館書店 現代高等保健体育(保体701)
-------	---------	-------	--------------------------

教科・科目の目標

- (1) 合理的・計画的な実践を通して運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を継続することができるようにするために、運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの技能を身に付けるようにする。
- (2) 豊かに運動を継続するための課題を発見し、解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 競争や協働の経験を通して、公正・協力・責任・参画などの力に加え、一人ひとりの違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全の確保や運動に生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。

項目名	時間	知識・技能	評価方法	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
体育					
1 オリエンテーション	2	・学校での集団生活や授業について理解する。 ・公正・協力・責任・参画と意欲や態度の大切さを理解する。	①健康・安全の確保のための準備物(用具や服装)の点検	・あいさつ、返事や返答、聞く態度など多様な伝える力を表現する。	・準備物などの管理ができる。
2 体づくり運動	10	・学校生活に必要な体力や態度について理解する。 ・協働の楽しさや喜びを深くあじわう。 ・課題の動きを理解し正しくからだを動かす。	②公正・協力・責任・参画について行動の分析 ③活動時の技能(授業での知識を理解した技能の分析)	・グループ内でどこに重点を置き練習を進めるかなど合理的かつ計画的な実践をする。 ・自己や仲間の考えたことを伝える。 ・一人ひとりが自分の役割を理解・判断し、責任ある行動をする。 ・互いを助け合い高めようとする。	・個人や仲間との練習を通して試技回数を重ねながら意欲的に活動する。 ・学習内容に対して正しいフォームや位置取りなどを意識しながら取り組む。
3 選択A 以下の領域より1領域選択 ・器械運動 ・ダンス	16	・決まったタイミングに合わせて、体をお手本通りに止めたり動かしたりする。 ・基本的な技や発展技の達成を通して運動の楽しさや喜びを深く味わう。	④発言や記述の分析		・コミュニケーションを学ぶ場ということを理解して、意欲的に他者と関わる。 ・わからない動作や説明に対して、教師や仲間質問したり調べたりなど意欲的に活動する。
4 体育理論 技能の上達過程と練習 効果的な動きのメカニズム 体力トレーニング	2	・自身の体力測定結果を把握し、合理的・計画的な体力の高め方を学ぶ。 ・補強運動の継続が結果として体力を高めることを理解する。	⑤聞く時の態度 ⑥活動時の態度		
5 選択B 以下の球技種目より1選択 (ネット型:バレーボール/ ベースボール型:ソフトボール/ ゴール型:ラグビー)	19	・ルールや役割と楽しみ方を理解する。 ・型の特性を理解し空間を埋める、つくる楽しさを味わう。 ・個人や集団での基本技や発展技を通して結果的に体力を高めることを理解する。 ・安全で合理的、計画的な練習方法があることを学ぶ。		・公正の中で自身の役割を判断し、行動したり提案したりする。 ・自分や仲間の考えていることを伝える。 ・自分や仲間の長所を生かすためにコミュニケーションを図ったり作戦を立てたりしたことを実践する。 ・用具の準備片付けをより迅速に行うよう協力して合理的に活動する。 ・安全に留意した練習エリアの活用と合理的、計画的な時間設定を判断し活動する。 ・危険を予測しながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保する。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする。	・役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする。
6 体育理論 技能の上達過程と練習(復習) 体カトレーニング(復習) 運動やスポーツでの安全の確保	2	・用具の安全な運搬・設置方法を学ぶ。 ・間隔距離や方向、視界からの安全の確保を理解する。 ・運動負荷からの安全の確保を理解する。			
7 選択C 以下の領域・種目より1選択 ・武道(柔道) ・球技 (ネット型:バレーボール/ ベースボール型:ソフトボール/ ゴール型:バスケットボール)	22	・相手の動きに応じた基本動作から得意動作や連絡技、変化技を用いて攻防を展開する。 ・相手の構えを崩す素早い仕掛けやタイミングをずらした攻防を個人や仲間との連携でつくる。 ・球技においても、わが国固有の文化である武道の相手を尊重する姿勢を重んじ、礼法を学ぶ中で人間形成に役立つことを理解する。			
項目名	時間	知識・技能	評価方法	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
体育					
8 体育理論 スポーツにおける技能と体力 スポーツにおける技術と戦術	2	・技能を支える体力の必要性や体力を高める動機となる技術目標など心技体の関係を理解する。 ・技術と作戦、戦術などの活用を学ぶ。	①健康・安全の確保のための準備物(用具や服装)の点検	・公正の中で自身の役割を判断し、行動したり提案したりする。 ・自分や仲間の考えていることを伝える。 ・自分や仲間の長所を生かすためにコミュニケーションを図ったり作戦を立てたりしたことを実践する。	・個人や仲間との練習を通して試技回数を重ねながら意欲的に活動する。
9 陸上競技(長距離走)	14	・腕振りや力みのないフォームの習得で技能が高まるだけでなく、生涯にわたって運動に親しむ力が育まれることを理解する。 ・呼吸法やピッチ、ストライドを生かして自分のペースを維持して走る。	②公正・協力・責任・参画について行動の分析 ③活動時の技能(授業での知識を理解した技能の分析)	・自分や仲間の長所を生かすためにコミュニケーションを図ったり作戦を立てたりしたことを実践する。 ・用具の準備片付けをより迅速に行うよう協力して合理的に活動する。 ・安全に留意した練習エリアの活用と合理的、計画的な時間設定を判断し活動する。 ・危険を予測しながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保する。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする。	・学習内容に対して正しいフォームや位置取りなどを意識しながら取り組む。 ・コミュニケーションを学ぶ場ということを理解して、意欲的に他者と関わる。
10 選択D 以下の領域・種目より1選択 ・武道 ・球技 (ネット型:バレーボール/ ゴール型:サッカー/ ゴール型:バスケットボール)	16	・相手の動きに応じた基本動作から得意動作や連絡技、変化技を用いて攻防を展開する。 ・相手の構えを崩す素早い仕掛けやタイミングをずらした攻防を個人や仲間との連携でつくる。 ・球技においても、わが国固有の文化である武道の相手を尊重する姿勢を重んじ、礼法を学ぶ中で人間形成に役立つことを理解する。	④発言や記述の分析 ⑤聞く時の態度 ⑥活動時の態度		・わからない動作や説明に対して、教師や仲間質問したり調べたりなど意欲的に活動する。 ・役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする。

授業担当等	生活創造科1年	使用教科書	大修館書店 現代高等保健体育(保体701)
-------	---------	-------	--------------------------

教科・科目の目標

- (1)さまざまな健康の考え方や健康に影響を与えるさまざまな因子を学ぶとともに個人や社会ができる健康保持増進について深く学び、例をあげて説明できる。
 (2)安全な社会について実態や事例をもとに必要な個人の行動や方法について学び、例をあげて説明できる。

項目名	時間	知識・技能	評価方法	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
保健編 1単元 現代社会と健康					
1 健康の考え方と成り立ち	3	・各種の指標や疾病構造の変化を通して社会の発展や健康問題を理解し、言ったり書いたりしている。 ・社会の変化に伴い、個人や集団の健康についての考え方も変化していることや、主要因と、健康の成立について、理解したことを言ったり書いたりしている。	①記述の点検 ②行動の分析 ③記述の分析 ④座学やアクティブラーニング時の態度	・学習内容について、原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・学習内容に対してデータや資料に基づいて分析し、課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理している。 ・学習内容に対して自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	学習内容について課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
2 私たちの健康のすがた					
3 生活習慣病の予防と回復					
4 がんの原因と予防	9	・生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組とともに、社会的な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・がんは、様々な種類があり、生活習慣のみならず他の原因もあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。			
5 がんの治療と回復					
6 運動と健康					
7 食事と健康					
8 休養・睡眠と健康	4	・喫煙や飲酒、薬物乱用について個人や社会環境への適切な対策が必要であること、また薬物乱用は、決して行ってはならないことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。			
9 喫煙と健康					
10 飲酒と健康					
11 薬物乱用と健康	4	・精神疾患の特徴や一次予防、二次予防、三次予防について理解したことを言ったり書いたりしている。			
12 精神疾患の特徴					
13 精神疾患の予防					
14 精神疾患からの回復	4	・現代の感染症と予防について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・性感染症及びエイズとその予防について理解したことを言ったり書いたりしている。			
15 現代の感染症					
16 感染症の予防					
17 性感染症・エイズとその予防	3	・ヘルスプロモーションの考え方に踏まえ、個人や社会全体の取り組みが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康を保持増進するためには様々な社会環境があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。			
18 健康に関する意思決定・行動選択					
19 健康に関する環境づくり					
保健編 2単元 安全な社会生活					
1 事故の現状と発生要因	4	・事故の現状と発生要因、安全な社会の形成、個人の適切な行動、交通環境の整備が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	同上	同上	同上
2 安全な社会の形成					
3 交通における安全					
4 応急手当の意義とその基本	4	・適切な応急手当、救急体制の整備の必要性、救急体制の利用について、理解したことを言ったり書いたりしている。			
5 日常的な応急手当					
6 心肺蘇生法					

令和5年度 年間学習計画（シラバス）

教科	芸術	科目	音楽I	単位数	2単位
学科	生活創造科		学年	第1学年	
教科書	ON! 1（音楽之友社）		副教材等	高校生の歌集 つどい	

- 1 【目標】音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
 - (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
 - (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容(項目)	学習のねらい	【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
第1学期	4	・歌唱 歌唱・校歌 ・基礎的な音楽理論	・呼吸や口の形など発声の基本を学習する。 ・歌うことの楽しさを感じる。 ・楽譜を見て歌う力（視唱・読譜）を養う。	・曲想と歌詞との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、楽曲にふさわしい発声、言葉（歌詞）の発音などの技能を身につけている。	・旋律や声の音色を理解して、どのように歌唱表現するかについて表現意図をもっている。	・曲にふさわしい発声に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の活動に取り組もうとしている。
	5					
	6	・歌唱 歌唱・ポップス ・基礎的な音楽理論	・楽譜から正確なリズムを読み取り（読譜）、声を発して表現をする。 ・それぞれの役割（パートごとのリズム、言葉など）を果たし、互いに聴き合いながら、リズムの関係や声の響きの調和を作り出す。 ・楽曲の曲想について、互いに共通の意識をもって、音楽を作り出すようにする。	・曲想と楽曲の構造（声で表現するリズムアンサンブル）との関わりについて理解している。 ・楽曲にふさわしい発音などの技能を身につけている。	・互いに声の響きを感じ取りながら、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。	・声でのアンサンブルの演奏をするに関心をもち、主体的・協働的にリズムの創作活動や自らの声での演奏活動に取り組もうとしている。
	7					
第2学期	9	・歌唱 イタリアの歌 ・基礎的な音楽理論	・イタリア語の発音の特徴を理解する。 ・楽曲にあるリズム、旋律、ハーモニーの関わりを理解する。 ・歌詞の内容、曲想を理解し、楽曲に合わせた表現をして歌う。	・言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、楽曲にふさわしい発声、言葉の特徴をとらえた発音などの技能を身につけている。	・旋律や言葉（歌詞）と楽曲の美しさとの関わりについて考え、どのように歌唱表現するかについて表現意図をもっている。	・イタリア古典歌曲に関心をもち、楽曲の雰囲気をもって、主体的・協働的に歌唱の活動に取り組もうとしている。
	10	・鑑賞 ミュージカル ・基礎的な音楽理論	・それぞれの作品を鑑賞し、物語の内容、登場人物の心情を理解する。 ・リズムと旋律の関わり理解し、互いに聴くことへの興味をもたせる。 ・歌詞の内容、曲想を理解し、楽曲に合わせた表現をして歌う。	・それぞれの作品の楽曲の特徴や作品の時代背景、舞台作品としての表現方法を理解している。 ・それぞれの楽曲についてふさわしい発声を身につけている。	・リズムと旋律の関係を知覚して、それらの働きを感じ、音楽の美しさや特徴をとらえて、どのように歌唱表現するかについて表現意図をもっている。	・物語や登場人物、それぞれのナンバーに関心をもち、主体的・協働的に歌唱や鑑賞の活動に取り組もうとしている。
	11	・器楽・創作 ピアノ ・基礎的な音楽理論	・楽典の初歩として音階と和音を鍵盤楽器を併用して学習する。 ・単旋律教材から鍵盤楽器に親しみをもち弾くことへの興味をもたせる。 ・片手三重奏（ディズニー・ア・ラ・カルト）から3人でのアンサンブルで鍵盤楽器での合奏を楽しむ。	・音階（音の並び）や和音（音の重なり）を弾いたときの響きや、音型の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。 ・創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身につけている。	・音色やリズム、旋律、和音の関係を知覚し、それらの働きを感じ、音楽の美しさや特徴をとらえて、どのように音楽を作り出し、自ら表現するかについて表現意図をもっている。	・鍵盤楽器の演奏や、独奏やアンサンブルの演奏をすることに関心をもち、主体的・協働的に創作活動や器楽の活動に取り組もうとしている。
	12					
第3学期	1	・歌唱・鑑賞 日本の歌 日本の心 ・基礎的な音楽理論	・音色やテクスチャを知覚し、それらの働きを感じながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わわせる。	・日本の伝統的な歌の特徴と文化的・歴史的背景について理解している。	・音色やテクスチャを知覚し、それらの働きを感じながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。	・日本の伝統的な音楽に関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の活動に取り組もうとしている。
	2					
	3	・歌唱 校歌 式歌 ・基礎的な音楽理論	・日本語（歌詞）の発音（鼻濁音、子音など）に注意して歌う。 ・歌詞の内容、曲想を理解し、楽曲に合わせた表現をして歌う。	・曲想と歌詞や楽曲の背景との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、楽曲にふさわしい発声、言葉（歌詞）の発音などの技能を身につけている。	・旋律と楽曲の美しさとの関わりについて考え、どのように歌唱表現するかについて表現意図をもっている。	・楽曲の美しさに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の活動に取り組もうとしている。

3 担当者からのメッセージ

日常的に楽しんでいる様々なジャンルの音楽を理論的に捉え、自ら表現、演奏できることを目指しましょう。

教科・科目の目標

- (1) 基本的な語句や文が用いられていれば、内容を聞いたり読んだりして理解することができる。
- (2) 基本的な語句や文を用いて、与えられたフォーマットを参考に自分の考えを伝えあうことができる。
- (3) 基本的な語句や文を用いて、主体的に考えを話したり、相手からの質問に答えたりしようとするコミュニケーションの態度を養う。

学期区分	課	知識技能	思考・判断・表現			主体的に取り組む態度	評価の方法
			Speaking	Listening	Writing		
1 学期 中間	Get ready LESSON 1 Colors of Spring LESSON 2 Dick Bruna	・中学校までの知識を理解している。 ・be 動詞・一般動詞の現在形・過去形について理解している。	・中学校までに学習した単語を正しく発音できる。 ・be 動詞・一般動詞の現在形・過去形に注意しながら伝え合うことができる。	・中学校までに学習した単語が聞き取れる。 ・be 動詞・一般動詞の現在形・過去形に注意しながら聞き取ることができる。	・中学校までに学習した単語・表現で英文が書ける。 ・be 動詞・一般動詞の現在形・過去形に注意しながら書くことができる。	中学校までに学習した単語・表現で、自分のことを表現しようとしている。	・定期考査 ・単語小テスト
1 学期 期末	LESSON 3 Interesting Sports LESSON 4 Pictograms	・現在・過去進行形、助動詞 (can, will)、動名詞について理解している。 ・英語のジェスチャーについて理解している。	・現在・過去進行形、助動詞 (can, will)、動名詞に注意しながら伝え合うことができる。 ・学習した文法を用いて、自分の学校についての簡単なスピーチができる。	・現在・過去進行形、助動詞 (can, will)、動名詞に注意しながら聞き取ることができる。	・現在・過去進行形、助動詞 (can, will)、動名詞に注意しながら書くことができる。	・ジェスチャーを使って効果的にコミュニケーションをとろうとしている。	・定期考査 ・単語小テスト ・パフォーマンステスト (プレゼンテーション)
2 学期 中間	LESSON 5 We Are Part of Nature LESSON 6 Machu Picchu	・to 不定詞、助動詞、現在完了形について理解している。 ・英語の手紙の書き方や表現について理解している。	・to 不定詞、助動詞、現在完了形に注意しながら伝え合うことができる。 ・行きたい旅行先や世界遺産について、理由を含めて相手に伝えることができる。	・to 不定詞、助動詞、現在完了形に注意しながら聞き取ることができる。	・to 不定詞、助動詞、現在完了形に注意しながら書くことができる。	・行きたい旅行先や世界遺産について、理由を含めて相手に伝えようとしている。	・定期考査 ・単語小テスト ・パフォーマンステスト (英作文)
2 学期 期末	LESSON 7 Artificial Intelligence LESSON 8 Is There a Santa Claus?	・受動態、関係代名詞 (who, which) について理解している。 ・英語でのメールの書き方について理解している。	・受動態、関係代名詞 (who, which) に注意しながら伝え合うことができる。	・受動態、関係代名詞 (who, which) に注意しながら聞き取ることができる。	・受動態、関係代名詞 (who, which) に注意しながら書くことができる。 ・英語でメールの書き方に沿って書くことができる。	・英語のメールの書き方に沿って、伝えたいことを伝えようとしている。	・定期考査 ・単語小テスト ・パフォーマンステスト (英会話力テスト)
学年末	LESSON 9 Kid's Guernica LESSON 10 Ethical Fashion	・後置修飾、関係副詞 where、比較級について理解している。	・後置修飾、関係副詞 where、比較級に注意しながら伝え合うことができる。	・後置修飾、関係副詞 where、比較級に注意しながら聞き取ることができる。	・後置修飾、関係副詞 where、比較級に注意しながら書くことができる。	・英語でわかりやすい論理展開・表現を用いて相手に伝えようとしている。	・定期考査 ・単語小テスト ・パフォーマンステスト (プレゼンテーション)

教师 · 杨俊华 · 薛建

- 1 人の一生と家族・家族生活の歴史、衣食住、消費生活、環境などについて理解し、それらに基く行動を身に付ける。
2 思惑の中が問題を見いだして問題を特定し、実態や考察に基づいて生涯を見通して問題を解決する力を養う。
3 社会的な生活の場において、自分の実態、理想の生活の場や方向性を明らかにする実践的な能力を養う。

[illegible]

教科・科目の目標

- (1) 農業生物を育成し、収穫の喜びと農業に関する基礎的な知識と技術を習得する。
 (2) プロジェクト学習により、農業及び農業科目の学習について興味・関心を高める。
 (3) 観察・調査・記録を通して、科学的思考と問題解決能力を伸ばす。

育成する資質・能力			知識・技能	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	評価の方法	主な学習活動	教材等
				多面的に考察すること	適切に判断すること	関りを知ること				
月	単元名・内容	時数	指導事項・評価基準							
4	農業と環境を学ぶ	6	農業と環境を理解している。	現在の農業と環境について、地域や過去を比較して、その現状を知る。		農業と環境に興味を持ち、その概要を知る。	専門教科に対して、進んで取り組むことが出来るように自ら学習を調整しようとしている。	①記述の点検 ②記述の分析 ③座学・実習時の態度	現在と過去の日本の農業について比較を行う。	教科書 P 4～
5	農業と環境の関わり 農業と環境の学び方	8	農業と環境の関わり方、学び方を理解している。			学校農業クラブ活動やプロジェクト学習に興味を持ち、その概要を知る。	関わり方、学び方に理解を深め、自らの学習を調整しようとしている。	①記述の点検 ②記述の分析 ③座学・実習時の態度	プロジェクト学習とは何か、学校農業クラブ活動の目的・内容・組織について調査を行う。	教科書 P10～
6	イネの栽培(播種)	10	イネの生理・生体について理解している。	気象・土壌・生物的要素などの栽培環境を知る。		施肥・病害虫防除の必要性を知る。	イネの生理・生体について理解を深め、自らの学習を調整しようとしている。	①記述の点検 ②記述の分析 ③座学・実習時の態度	播種・かん水、発芽からの観察開始。	教科書 P114～
7	トウモロコシの栽培(収穫)	5	トウモロコシの生理・生体について理解している。	気象・土壌・生物的要素などの栽培環境を知る。		施肥・病害虫防除の必要性を知る。	トウモロコシの生理・生体について理解を深め、自らの学習を調整しようとしている。	①記述の点検 ②記述の分析 ③座学・実習時の態度	成長観察・病害防除、収穫、収量調査を行う。	教科書 P156～
9	ハクサイの栽培(播種)	8	ハクサイの生理・生体について理解している。			結球ハクサイの栽培上の特徴を知る。	ハクサイの生理・生体について理解を深め、自らの学習を調整しようとしている。	①記述の点検 ②記述の分析 ③座学・実習時の態度	播種・かん水、発芽からの観察開始。	教科書 P186～
10	イネの栽培(収穫)	15	イネの生理・生体について理解している。	継続的な栽培実習を通して、生育の規則性や特質管理方法付加価値を高める加工を理解する。	収穫時期を適切に判断する。		イネの生理・生体について理解を深め、自らの学習を調整しようとしている。	①記述の点検 ②記述の分析 ③座学・実習時の態度	収穫・乾燥・初搾り・精米・試食を行う。	教科書 P154～
11	ハクサイの栽培(収穫)	5	ハクサイの生理・生体について理解している。	継続的な栽培実習を通して、生育の規則性や特質管理方法付加価値を高める加工を理解する。		施肥・病害虫防除の必要性を知る。	ハクサイの生理・生体について理解を深め、自らの学習を調整しようとしている。	①記述の点検 ②記述の分析 ③座学・実習時の態度	観察・調査・追肥・除草・害虫駆除を行い、収穫・調整・個体の収量調査を行う。	教科書 P190～
12	プロジェクト学習発表	10	プロジェクト学習を理解している。			プロジェクト学習に興味を持ち、その概要を知る。	班別に観察・記録してきた栽培物を成長過程を発表する。	①記述の点検 ②記述の分析 ③座学・実習時の態度	観察・測定した記録簿をまとめて、それをもとに発表原稿を作成する。	教科書 P10～
1	ニワトリの飼育と利用	6	ニワトリの知識について理解している。	ニワトリから生産されている卵や肉について、その現状を知る。			ニワトリの知識について理解を深め、自らの学習を調整しようとしている。	①記述の点検 ②記述の分析 ③座学・実習時の態度	ニワトリの祖先、日本渡来、家畜として人間の関係を理解する。	教科書 P212～
2	農業をとりまく環境とその管理について	6	農業と環境を理解している。	現在の農業と環境について、地域や過去を比較して、その現状を知る。			農業と環境を理解を深め、自らの学習を調整しようとしている。	①記述の点検 ②記述の分析 ③座学・実習時の態度	現在と過去の日本の農業について比較を行う。	教科書 P24～
3	まとめ	6	農業と環境が密接であることを理解し、人間の役割について知識を身につけている。			農業に関わる一般的な栽培・飼育方法について基礎・基本を理解している。	学習の状況を把握し、自らの学習を調整するとともに、専攻学習につなげようとしている。	①記述の点検 ②記述の分析 ③座学・実習時の態度	成長過程・収量の記録を集計し、まとめる。	教科書 P13

授業担当等	生活創造科1年	使用教科書	「ファッション造形基礎」 (実教出版)
-------	---------	-------	------------------------

教科・科目の目標

- (1) 被服の構成、被服の材料、被服の性能を理解する。
 (2) 適切な被服材料の選択と取り扱い、デザイン・使用用途に適した製作技法と関連する技術を習得する。

育成する資質・能力			知識・技能	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	評価の方法	主な学習活動	教材等
				多面的に考察すること	適切に判断すること	関りを知ること・表現すること				
月	単元名・内容	時数	指導事項・評価基準							
4	1節 製作の基礎 (基礎縫い)	6	手縫い（なみ縫い・まつり縫い・半返し縫いなど）を習得する。			被服製作に興味を持ち、その概要を知る。	実習に対して主体的に取り組み、自らの技術の向上に努めている。	①実習の進度 ②実習の態度 ③作品	基礎縫い（手縫い）	教科書 検定問題集
5	1節 製作の基礎 (基礎縫い)	8	ミシン操作を理解する。 ミシン縫い（三つ折りミシン、模様縫い）を習得する。				実習に対して主体的に取り組み、自らの技術の向上に努めている。	①実習の進度 ②実習の態度 ③作品	基礎縫い（手縫い） 基礎縫い（ミシン縫い）	教科書 検定問題集
6	1節 製作の基礎 (基礎縫い)	10	検定時間内に縫いあげる力を習得する。 裁断・しるしつけの方法を理解する。				実習に対して主体的に取り組み、自らの技術の向上に努めている。	①実習の進度 ②実習の態度 ③作品	基礎縫い（手縫い） 被服製作4級検定 アウターパンツ製作	教科書 検定問題集
7	1節 製作の基礎 (アウターパンツ)	5	アウターパンツの構成を理解し、ミシン縫いできれいに仕上げることができる。	日常着にふさわしい布を理解する。		アウターパンツ製作の布を適切に選択することができる。	実習に対して主体的に取り組み、自らの技術の向上に努めている。	①実習の進度 ②実習の態度 ③作品 ④記述の点検	アウターパンツ製作	教科書 検定問題集
9	1節 製作の基礎 (アウターパンツ)	8	アウターパンツの構成を理解し、ミシン縫いできれいに仕上げることができる。	アウターパンツの構成を理解する。			実習に対して主体的に取り組み、自らの技術の向上に努めている。	①実習の進度 ②実習の態度 ③作品	アウターパンツ製作	教科書 検定問題集
10	1節 製作の基礎 (アウターパンツ)	15	アウターパンツの構成を理解し、ミシン縫いできれいに仕上げることができる。	アウターパンツの構成を理解する。	繊維に合わせたアイロン温度を適切に判断する。 布に合わせた糸を判断する。		実習に対して主体的に取り組み、自らの技術の向上に努めている。	①実習の進度 ②実習の態度 ③作品 ④記述の点検	アウターパンツ製作	教科書 検定問題集
11	1節 製作の基礎 (じんべい)	5	検定時間内に縫いあげる力を習得する。 裁断・しるしつけの方法を理解する。	じんべいの構成を理解する。	ミシンの糸調子を適切に判断できる。 縫いしろ始末を適切に判断できる。	農業祭で作品の展示ができる。 ファッションショーで作品を着用し、自己表現ができる。 じんべい製作の布を適切に選択することができる。	実習に対して主体的に取り組み、自らの技術の向上に努めている。	①実習の進度 ②実習の態度 ③作品	被服製作3級検定 じんべい製作	教科書 検定問題集
12	1節 製作の基礎 (じんべい)	10	じんべいの構成を理解し、そで作りをきれいに仕上げることができる。	じんべいの構成を理解する。			実習に対して主体的に取り組み、自らの技術の向上に努めている。	①実習の進度 ②実習の態度 ③作品 ④記述の点検	じんべい製作	教科書 検定問題集
1	1節 製作の基礎 (じんべい)	6	じんべいの構成を理解し、えりつけをきれいに仕上げることができる。	じんべいの構成を理解する。			実習に対して主体的に取り組み、自らの技術の向上に努めている。	①実習の進度 ②実習の態度 ③作品	じんべい製作	教科書 検定問題集
2	1節 製作の基礎 (じんべい)	6	じんべいの構成を理解し、わき縫い・そで付けをきれいに仕上げることができる。	じんべいの構成を理解する。			実習に対して主体的に取り組み、自らの技術の向上に努めている。	①実習の進度 ②実習の態度 ③作品 ④記述の点検	じんべい製作	教科書 検定問題集
3	1節 製作の基礎 (じんべい)	6	じんべいの構成を理解し、作品を完成させることができる。	じんべいの構成を理解する。			実習に対して主体的に取り組み、自らの技術の向上に努めている。	①実習の進度 ②実習の態度 ③作品	じんべい製作	教科書 検定問題集

2. 基本的な調理技術の要点を理解し、実習を通して技術を身に付けるようにする。

育成する養畜・能力	知識技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価の方法	主な学習成果	教科書
第1章 1. 食料の需要と供給 2. 畜産の意義と現状 3. 食料技術の発展と課題	・食肉の食料にどのような役割があるかを理解している。 ・日本の食生活の現状と、青年期の食生活の課題を理解している。 ・食肉の生産と消費は時代によって変化していることを理解している。 ・食料技術の発展と課題の関係を理解している。 ・食肉の生産と消費の関係を理解し、基本的な飼育方法を身に付けている。	・食肉の生産と消費を分析して、自分の食生活を正しく評価している。 ・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。 ・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。	・食肉の生産と消費を分析して、自分の食生活を正しく評価している。 ・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。 ・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。	・プリント ・レポート ・小テスト ・実技試験 ・学期末考査	・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。 ・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。 ・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。	教科書
第2章 1. 食肉の生産と消費 2. 食肉の生産と消費 3. 食肉の生産と消費 4. 食肉の生産と消費 5. 食肉の生産と消費	・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。 ・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。 ・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。	・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。 ・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。 ・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。	・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。 ・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。 ・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。	・プリント ・レポート ・小テスト ・実技試験 ・学期末考査	・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。 ・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。 ・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。	教科書
第3章 1. 食肉の生産と消費 2. 食肉の生産と消費 3. 食肉の生産と消費 4. 食肉の生産と消費 5. 食肉の生産と消費	・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。 ・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。 ・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。	・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。 ・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。 ・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。	・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。 ・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。 ・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。	・プリント ・レポート ・小テスト ・実技試験 ・学期末考査	・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。 ・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。 ・食肉の生産と消費の関係を理解し、自分の食生活を正しく評価している。	教科書

投資項目	定額(億元)	使用教科書	《社會學》(第2版)
------	--------	-------	------------

[illegible]